

東京農薬大学の学食から出た生ごみ由来の肥料「みどりくん」を紹介する後藤代表(東京都世田谷区で)



東京農大発(株)全国土の会(東京)

東京農薬大学のベンチャー企業・東京農大発(株)全国土の会は、大学が開発した技術を使い、土壌診断や診断結果を基にした土づくりの指導で生産者を支えている。企業や地域から出る生ごみなどの未利用資源が原料の肥料を活用し、野菜を地産地消する循環ネットワークづくりの提案も進める。

代表は同大学の後藤逸男名誉教授で、生産者が土や肥料について学ぶ「全国土の会」の会長を務める。研究成果や技術を生産現場へ伝えるため、後藤代表が大学を退職した2015年に会社を設立した。

後藤代表は40年以上、土壌の分析方法などの研究に携わり、全国の現場を訪れた。生産者と関わる中で「生産者は作物づくりのプロだが、土づくりに詳しい

診断基に生産者指導 生ごみ由来肥料活用も

人は少ない」と感じ、社を通じて土づくりのプロを育てることを目指す。

主な事業は①土壌や肥料の診断②土づくりなど農業コンサルティング③研修会や講演会の講師——など。土壌診断は、全国土の会会員から依頼を受け、17年は2000点以上を診断した。

「施肥や土づくりについて生産者自身に考えてもらいたい」との思いから、診断結果には改善に有効な肥料名や施肥量を明記しない。処方箋を出さず、施肥のポイントだけを解説する。

結果に基づいた土づくりのコンサルティングも手掛ける。JAと契約し、営農指導員や若手農業者向けに研修会を開き、施肥の指導、土づくりの実践に取り組む。講演や研修は好評で、後藤代表は年50回ほど講師

として全国を飛び回る。

企業、行政にはリサイクル事業として、生ごみや木質バイオマス(生物由来資源)を原料に、肥料や土壌改良資材の生産を提案する。生ごみ由来の肥料「みどりくん」がその一つだ。乾燥と搾油の独自技術で、約2時間で生ごみを肥料化できる。臭いが発生しないため、デパートやごみ処理場など街中で活用できると見込む。「地域で出た生ごみを資源として地域で循環できる」と展望する。

今後は分析機関ごとに異なる土壌診断結果の表示方法を統一して、より分かりやすくするなど、農業の手助けになる仕組みを作るという。「役立つ技術が現場に伝わっていないのは残念。多くの生産者に土のことを知り、考えてもらいたい」と意欲を示す。

■会社概要＝2015年創立。土壌や肥料の分析や土づくりのコンサルティングを手掛ける。

■所在地＝〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1の1の1、電03(3426)1771。

会社 フォーカス